

「チャレンジ(挑戦)させよう」

「ワクワクする」「面白そう」など興味や関心があれば「やってみたい」という気持ちが生れます。その気持ちを後押しするのが親の役目でしょう。ただ、子どもが興味や関心を持ったりするものには、親にとって困ったことも多いものです。部屋が散らかる、衣服が汚れる、危ない、時間を忘れて熱中する…など、親としては、その後のことを考えて、つい注意したり叱ったりして止めさせてしまう事柄が多いのではないのでしょうか。健康管理や他者への迷惑など社会的ルールを考慮することは必要ですが、せっかく子どもが興味や関心を持った事柄を日頃は制止しておきながら、親が望む事柄には「もっと積極的に」「失敗を恐れずにチャレンジ」と言っても、やる気を起こすのは難しいかも知れません。子どもがチャレンジする環境を作るには、親の気持ちや都合を優先し過ぎないのも必要です。

チャレンジ精神を持ち続けるには、自信と失敗を恐れなくて挑む勇気が必要です。

自信は他人から与えることはできません。自分で目標を見つけ、達成するために努力し、その結果に自分なりの成果を感じたことが自信へとつながります。例え結果が悪くても自信を持つ場合もありますし、逆に結果が良くても自信につながらないこともあります。失敗をしないように、傷つかないようにと親が与えた目標や計画をクリアして周りが喜んで、本人には実感がないこともあります。他人から見た結果のよし悪しではないのです。

結果ではなく、自分で取り組んだ姿勢やプロセスを称賛することがチャレンジ精神を育み、例え失敗した場合でも、そのダメージを軽減し再びチャレンジする勇気を育みます。

子どもが自分でチャレンジして、やったぞという「どや顔」や「満足の笑み」を見逃さないでください。ここが褒める最高のタイミングです。自分の「やった感」に勝る高揚感はありません。ここでのプラスの評価が自信と勇気をさらに強く大きくし、自分らしさや自己肯定感を確立させることにつながります。

大人の社会は試行錯誤の連続ですからチャレンジ精神は重要です。しかし、結果で評価されることがほとんどで、失敗を叱責されることがあっても、成功を褒められることは少ないくらいです。だからこそ、子どもの頃には結果だけでなくプロセスを評価し、失敗を恐れずに自ら取り組む姿勢を育み、例え誰に褒められなくても自分で自分を認められる自己肯定感を持たせることが、チャレンジ精神を持ち続ける者を育てるためにはとても大切です。

そして何よりも大切なのは、親がチャレンジする姿勢を子どもに見せることです。親が宣言して何かにチャレンジする姿勢を見せましょう。子どもと同じことを目標にする必要はありません。例え親が失敗してもいいのです。「失敗したらどうするの?」と子どもに訊かれたら「失敗は成功の元、また挑戦すればいい!」と堂々と答えて下さい。